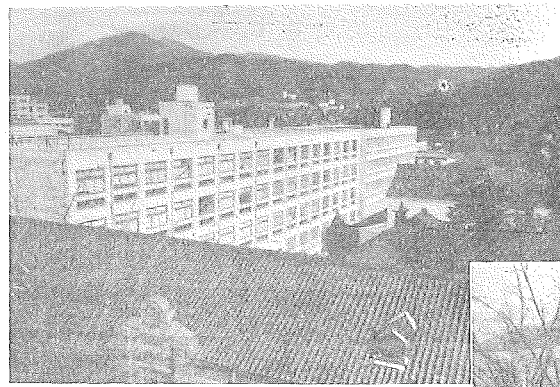
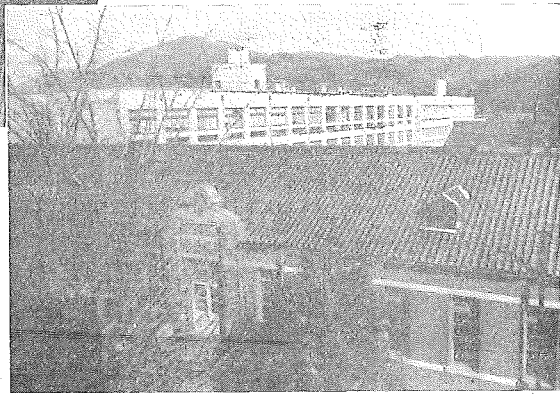


# 洛友會の報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会



上図は電気工学第二学科教室の全景です。右端は電気総合館(関電記念館)です。はるかに名峯比叡山を望む。



下図は電気工学教室正面右側より電気工学第二学科教室を望む。左側の樹木はなじみの公孫樹です。

## 随感

### 砂上の楼閣

災害の多い日本とはいえ、昨年五月以来のそれは特にひどい。新潟の大地震から山陰の豪雨。その間に化学薬品の大爆発というあらゆるおそえものまで加わったのだから、全くもってたまらない。

新潟震災の新聞写真を見て、私ももっとも驚かせたのは、四階建てのアパート建築がそのままの形で横たおしになっていることであつた。先年の福井震災で、デパートが二〇度くらいも傾斜したのは、私の知り合のブルニエー博士がアメリカから、わざわざ調査に来たりしたので、よくおえぼしているが、今度のように原形のまま横たおしになったのは珍しいことではなからうか。

私は建築構造については全くのしろうとなので、何もうべき筋合いではないが、これは恐らく建築そのものの強さと、土質というか、いわゆる土台の強度との取り合わせに不釣り合いがあつたため、つまりは設計のさいの総合的検討に至らぬ点があつたのではなからうか。

私にもこれに似た思い出がある。ちょうど三十年前の昭和九年、近畿地区は室戸台風で目茶苦茶にいたためつけられた。京都でも東山が見るにたえないまでにあざされた。また

鳥養利三郎

ま私はベルリンにいたので、なまのまの惨状を見ることはできなかつたが、新聞に京都市役所(後に上京区役所の誤りであつたことがわかつた)が倒れたとか、瀬田の鉄橋から列車が吹き飛ばされたとかいう記事が出るので、ずいぶん気をもんだものである。

その年の暮れに帰国すると、すぐ電気施設、風水被災の調査委員を依頼された。この時の調査対象の中で、一番重点が置かれたのは、送配電線であつたことはいまでもない。

もともと送配電線なるものは、鉄塔(あるいは鉄柱)で電線をささえているものであるが、どんな強風にも断線とか倒潰(かい)などの起こらないように造られていなければならぬ。ところが室戸台風では新潟のアパート同様、根こそぎ横たおしになった鉄塔鉄柱がずいぶん多かつた。理由も新潟と同じで、鉄塔そのものはしっかりできていたのだが、土台とのかね合いに對する総合的な考究が足りなかつたためである。

それで、われわれは新しく鉄塔設計基準を作りなおしたのであるが、恐らく今日もまだこれが実地に使用されているのであろうと思う。爾來三十年、鉄塔が横たおしになった話を、あまり聞かないので、われわれの運もよかつたのであろうと、昔の

ことをあれこれと思い出して、ホットしている次第である。

上述の横たおしなるものは、要するに一口でいうならば、構築物と土台との間のアンバランスによるものである。ところが、アンバランスなるものは今の社会には至るところに存在する。このごろ、やかましくいわれている経済のひずみというの、要するにアンバランスの一例といえよう。少し考えて見れば、社会にアンバランスなるものがいかに多くひそんでいるかに、すぐ気づかれるであろう。そして、このことは、世の中が民主化されてわれわれの生活が向上し、希望や意見が多種多様になるにつれ、ますますはなはだしくなるのでなからうか。

そこで思うに、今もつとも大切なのは、もの事を大局から総合的に考える能力の育成に重点を置いた人づくりを眼目とする教育に力を入れるべきことではなからうか。細かいことばかりにこせこせして、へりくつを並べるのに巧みなような人間が幅をきかせすぎると、アンバランスはますますひどくなるであらう。

楼閣を砂上に建てるような愚を、このうえ繰りかえしてはなるまい。

### 洛友会総会予告

第十四回洛友会総会は来る五月十六日(日)正午より京都ホテルにおいて開催の予定でありますから、奮って御出席下さい。詳細は本会報次号にご通知いたします。

なお、関西支部総会も同時同所に

開催いたします。

学術会議有権者

登録について

本年十一月二十五日に日本学術会議第七期会員の選挙が行われます。選挙し、または選挙されるためには有権者名簿に登録されなければなりません。新しく登録を希望される人は三月三十一日までに日本学術会議中央選挙管理委員会に登録する必要があるからです、至急委員会宛別書記式により登録カード用紙を請求され、登録手続をされるようお勧めします。

洛友会員諸君は殆んどの方が登録資格があると思われるので奮って御登録下さい。

登録用カード用紙請求書

(ふりがな) 氏名

住所

勤務機関および職名 (又は自営の職業名)

(葉書裏に記載のこと)

請求先

東京都台東区上野公園

日本学術会議

中央選挙管理委員会

林(重)先生錠剤一握りを一気に嚙む

ご記憶のよい皆さんは、本会報第二号に「林先生ガソリンを嚙む」という記事が掲載されたことをかすかながら思い出されるでせう。石橋をたたいて渡るといふ先生のことではありませんから、よもや早合点はなさらないと思うのですが、それに似た事件が起ったのでありますから、慎重居士もまた考えさせられるとがあります。

先生には、先年、病院にて精密検査を受けられた結果、脳障害のアラムともいうべき極めて軽微な眼底出血の徴候があったかにて入院されたことがあります。それも電気工学第二学科の誕生する間際で、とても忙しく病室にはじっとして居られなくて医師の許可を得ては自宅に帰り仕事をし居られたような状態でありました。

幸に、経過はよくて快癒されたのであります。時々病院にて診察を受けて居られました。その時におき事件であります。夕方から雪がチラチラ降り出した腕でありました。白浴みて按摩をとって、ゆっくり休む前に、さき

程病院で貰った薬を飲むうとして薬袋を見れると、食間に三分の一を飲めと記してあります。それで百二十六粒ある錠剤を丹念に三分して一気に四十二粒を飲まうとしました。

ところが、側に居られたご子息がお父さん丸薬なんかそんなに沢山に一時に飲むものではありません。ナニ薬袋にチャンと三分の一に分けて飲めと明記してあるではないかと激論されたのであります。兎に角飲み込みました。

なお、按摩をつづけて居ました。ご子息の注意も気にかかるので病院に問合せになりました。丁度、その頃には病院には薬局にも誰も居ず委しい事はわかりませんが、錠剤をそんなに沢山一時に飲むべきものではないことだけははつきりしました。

それで、病院から、近所の医者にでも胃を洗滌して貰ってくれとのことでしたが、もう夜も更けて医者も起きて呉れず、それでは病院え来て呉れとのことでした。

夕方から降り出した雪は益々本降りとなり、タクシー会社へ電話して、もう引上げたあとでした。

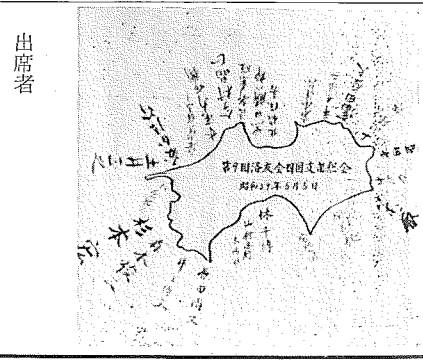
たまたま、いつもの女按摩は看護婦上りで、これが心配して道路に出て、やっとタクシーを拾ってくれたので六キロもある病院えそれで駆け付けました。

ところが病院では、主治医とも打合せであったのか、もう時間もたつたので胃の洗滌の必要はありませんとのあつけないこととなり、待たしあつたタクシーに乗って帰ってま

いりました。翌朝、前夜のつかれもあるので、ぐっすり寝て居ると、態々病院の主治医が見舞に来られ、異状のないことを確かめました。

その錠剤は高血圧を下げる薬でそれだけ多量に飲んでも一向に血圧は下がりませんでした。なお、以後、病院では各種の薬は一種類毎に袋を別にし、その使用方法を明記するようになつたことは、先生のこの事件後であります。

四国支部総会の記

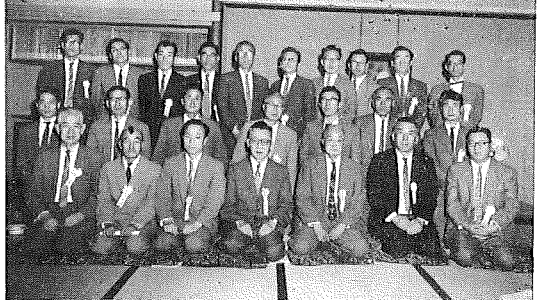


出席者

- 大石本勝弥 二渡部兼雄 昭三宮 地冬樹 丑北脇保喜 七中沢 小倉祐三 一〇藤本悟郎 二徳岡 毅 二黒田麟八郎 一原田尚文 三井川修一郎 一平井滋二 三村品正 三三土井正之 三富田盛夫 三森本俊三 三平田省三 三井上博文 三杉本宏 三辻本蔵 三元水 三溪寿右衛門 三推薦 三安堂勝年

六月六日(土)、教室および本部から林(千)教授、木島両教授ならびに山村幹事をお迎えして、高松市内紅羽旅館で第九回洛友会四国支部総会を開催した。平井幹事司会のもとに宮地副支部長の挨拶、会員の近況の紹介があつて昭和三十八年度会計報告および昭和三十九年度予算案を、満場一致で承認した。次いで林教授の教室の近況報告が山村幹事の本部の状況報告あつて総会を終了した。

引続き懇親会に入つたが、井上氏撮影にたる教室のカラースライドに往時をなつかしみ、又母校の発展する姿を目の辺にして話題は尽きず、その間藤本氏の友人顔負けのかくし芸が披露され、先生方の合唱など次々に指名されて日頃ののど自慢(♪)が競わ(♪)ほど、終始なごやかな雪囲気の中に時を過した。

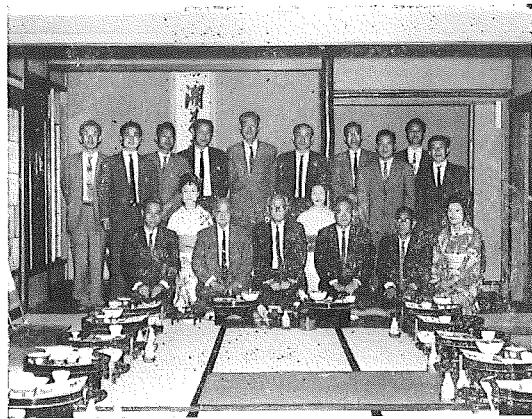


第九回洛友会四国支部総会 昭和39年6月6日

洛友会北陸支部総会記事

空梅雨特有の蒸し暑い六月十六日(火)、林重(先生)、山村幹事を富山市にお迎えして、昭和三十九年度洛友会北陸支部総会が開催された。会場は富山市内の一、二を争う料亭全茶寮の大ホールである。出席者は十三名、全員富山県で今回は石川、福井より参加者はなかった。

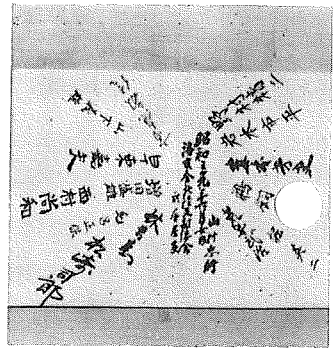
先づ増田幹事より支部の経過報告があり、ついで支部長挨拶となったが、長井支部長は今回退任され荒井武治氏が新支部長に選出された。次に支部役員交代の件に入り新幹事として森本芳夫氏、新評議員として長井要蔵、増田盛雄両氏が選出された。引続いて林先生より母校の現状のお話があり母校の益々発展しつつある様子を拝聴して一同感激を新たにした。



六月二十八日(日)午後一時より札幌市宮の森の山水閣で三年ぶりに支部総会を開催した。会は、支部総員十四名の中、八名が出席して役員改選、会計報告の後に、会員の自己紹介や昔話、最近の話題に楽しく終始し、次回来年度は洞爺湖畔で開くことを約束した。(芝山記)

洛友会北海道支部総会記事

からの新潟地震のニュースに被害の少なからんことを祈った次第である。宴進むにつれて芸者衆の舞踊が披露され、その後で斉藤敏信氏の手品が発表された。毎度氏の素人離れした腕前には驚嘆させられていたが、今回の新趣向の作品には、相手役務めさせられた林先生、芸者衆はもとより一同狐につままれた如く終つてから万雷の拍手がまき起った。



出席者 小田部毅、片山辰雄、池見幸彦、池内義則、芝山竜一、谷村実、中山道夫、土橋多一郎  
三十九年度中国支部総会記事  
残暑厳しい八月二十八日延び延びになっていた三十九年度総会を、林重(先生)、山村本副会長をお迎えして、広島市郊外の観音山荘において開催した。潮見幹事の司会により次の順序で総会は進められた。  
一、開会の辞 潮見幹事  
一、支部長挨拶 真田支部長  
一、庶務報告 庶務幹事  
一、会計報告 会計幹事  
一、役員改選  
一、教室の近況について 林先生  
一、洛友会の現状について



役員改選では、新支部長に真田現支部長が満場一致で再選され、幹事については支部長に一任された。山村副会長より、来年は教室の現状スライドにして持参する旨お話があり、一同その実現を切望した次第である。酒の量が増すにつれ、歌に踊りに十八番芸が次々と披露され、会はいつはてするとも知れず、幹事は閉会の時期を把握するのに苦慮するほど盛会であった。最後に洛友会の発展と各自の健康を祈って乾杯し解散した。

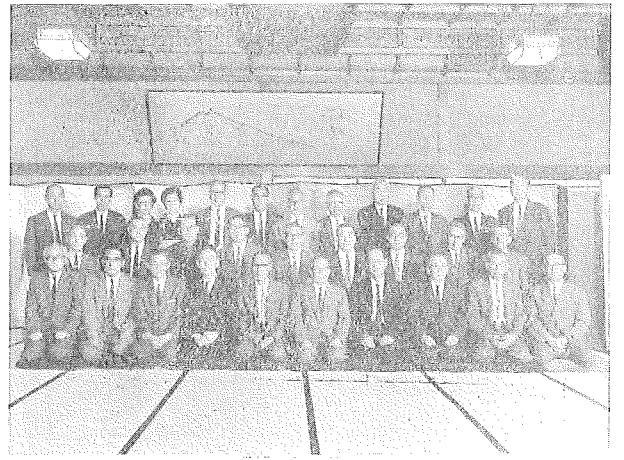
中国支部会員三十四名  
東京支部秋期旅行会の記  
九月二十七日には予定通り頭記東京支部秋期旅行会を実施致しました。当日は曇天で而も肌寒い感じもありましたため、参加者は大人九五名小人十八名計一一三名に止まりました。(申込者は前日迄に一五六名ありました)  
今回の旅行会は時期的にも又行先も一寸変つていたため、前述の様に申込者が極めて多く一時には一七〇名を越える盛況になりましたので、幹事としてはこれは大変とオリンピック等の準備で少い観光バスを増やす訳にも行かず会社と交渉の末やと六〇名乗りの大型三台に変更して貰い、又水郷観光の遊覧船も一八〇名乗りの大型に変更して貰う等大あわてを致しましたが、結局は前記の通り約一一〇名でありましたので、幹事の苦勞もかえってあだとなり経費ばかりが増大しがっかり致しました。

それでも当日は明治四一年卒業の宝来さん御夫妻を始めとして子供ずれの御夫妻、又新婚間もないと思われる若夫婦等多彩な顔ぶれで終始にぎやかな雰囲気の中に、大体予定の通り鹿島神宮より潮来出島一閣門一成田を経由して、途中バスガイド嬢の美しいウグイスののどを聴いたりクイズを果しんだりして午後六時半頃無事帰省致しました。  
関西支部総会の記  
十月十七日午後五時より中央電気クラブにおいて第十回関西支部総会が開催された。  
先づ、野田副支部長の挨拶について、事務並びに会計報告があり承認可決後、開宴、新会員の紹介があった。午後八時、道田先輩の発声により洛友会の方歳を三唱して散会した。

出席者

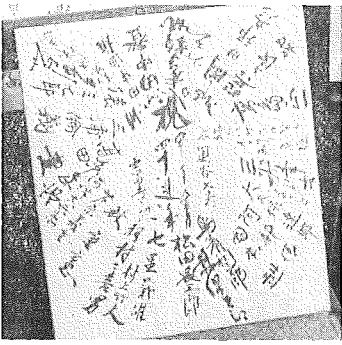
- 大元 鳥養利三郎 道田 貞治
- 六大家 徳雄 保寿 康象
- 上林 一雄 山村 志行
- 三間崎 意夫 弘田 龜之助
- 九林 堅太郎
- 二大山 誠介
- 三藤田 誠治 今田 英作
- 三奥谷 久彦
- 一四久保達郎 脇山 俊一
- 一五大島 広定
- 昭 二熊谷 三郎 林 憲憲
- 内田 幸夫 木間 昶
- 三上林 明
- 四山 徹夫 安本 健助
- 五野田忠二郎 伊藤 忠雄
- 六上西 亮二 吉田 洪二
- 七尾形 理 桂田 徳勝
- 笠原 芳郎 和田 昌博
- 浅田 英直 善積 儉一
- 八塩見 武夫 高橋 光雄
- 九石川 弘丈
- 一〇中堀 孝志
- 二清水 治郎 吉田 文策
- 三中山 和武
- 清野 武 佐々木 正
- 一三大本 健
- 山本 哲郎
- 一四田中 哲郎
- 一五小南 光夫
- 一六嘉田 隆美
- 一七西村 正太郎 安藤 安二
- 一八池上 淳一 近藤 文治
- 角田 寛 並木 博
- 一八隅 久明
- 三塚本 徹 深井 泰
- 三桑原 道義
- 高橋 充夫 門脇 蒼雄
- 五中野 稔
- 五宇野 敏一 木島 昭
- 三藤村 勉
- 原田 房佳 加納 忠勝
- 毛林 宗明
- 木村 陸朗 貝野 政弘
- 一八卯本 重郎
- 元西山 節男

- 三天台 規夫
- 三江森登喜夫
- 三橋本 安雄
- 三藤 洋作
- 吳有本 和彦
- 赤沢 靖志
- 三田中潤次郎
- 浅野 尚
- 竹居 敏夫
- 三田淵 義彦
- 森本 直樹
- 宇山 親雄
- 加茂川喜郎
- 真弓 和昭
- 三南 元
- 伊藤 紀夫
- 阿部 宏尹
- 大森 昌基
- 加藤 忠雄
- 粟路 謙二
- 中牟田正造
- 橋本伸太郎
- 足立 和男
- 砂原 洋一
- 蔵本 徹
- 尾形 文夫
- 田中 智
- 山田 洪平
- 川野 家稔
- 丹羽 昭男
- 酒井 保良
- 岩本 国三
- 佐藤 勝昭
- 児山 正弘
- 大西 和夫
- 田中英次
- 長谷川律雄
- 初田洋司雄
- 徳田 剛士
- 松原 宏明



甲子会(大正十三年卒)  
卒業四拾周年大会記録

大正十三年卒業の同窓会(甲子会)が丁度本年度で四拾周年になるので、五月九日(土)岡崎つるやにて多数の諸先生方の御出席を賜り、久々に顔を合せ歡を尽くす。第二日は会員の有志にて観光とゴルフの二班に



分かれて一日の清遊をなし二日間の行事を終った。  
両日共好天候に恵まれたのは幸であつた。

出席者(恩師)鳥養、岡本、七里、林(堅)、林(重)、松田、阿部、羽村、大久保の諸先生  
(会員) 芦原、奥谷、岡田、河津、菊地、高田(豊)、高島、田中

(登) 田中(通)、俵、巽、西、本多、岐美、三谷、三浦、村上、吉田、中島、弓削、二拾名(幹事吉田)  
会費徴収について  
洛友会費未納の方には振替用紙が封入してありますから、お忘れなくお振込み下さい。

卒業二拾周年  
記念同窓会

昭和二十九年九月卒業し

た青芝会は、本年卒業二拾周年を迎え、五月二十三日城陽カンツリンクラブにおいて、七名の出席者によりゴルフ会、引き続き翌二十四日琵琶湖ホテルにおいて、松田、阿部、大谷三先生の出席を得て、記念同窓会を開催した。同窓生の出席は十七名、これを地域別に見ると、京阪神八名、東京地区六名、中京地区三名と分類された。  
久し振りに見る湖畔の新緑と湖上のヨットの姿に、二十年の歳月を忘却した旧学生達であつたが、松田、阿部両先生から懐旧談が寄せられ、大谷先生からの出席者の家族構成の統計が発表され、またかつて東京方面へ学徒動員中の我々に与えられた松田教授からの就職先内定連絡書簡、謝恩会の時の都ホテルの勤定書などが発掘され、昼食をともしながら懐旧の敷時間を過した。  
(秋葉記)

